



nimaruアワード2025

2025.11.28

ベルサール九段

The background features a large, stylized logo for the award, consisting of several overlapping, curved lines that form a circular, spiral-like shape. The logo is rendered in a lighter shade of green than the background.

nimaruDX賞 導入定着部門

nimaruアワード2025

J Aグリーン近江 様

組織概要

名称	グリーン近江農業協同組合
誕生年月日	平成6年10月1日
管内エリア	滋賀県東近江市、近江八幡市、竜王町、日野町
拠点数	本店1、支店14、営農振興センター6、直売所1、その他営農施設
職員数	439人（正職員・臨時職員・派遣職員・2025年）
組合員数	23,618人（正組合員：7,923人 准組合員：15,695人・2025年）
主産品	米、近江牛、日野菜、ストレッチア etc
地域のPR	<p>当JA管内の東側は鈴鹿国定公園の山岳地帯、西側は琵琶湖国定公園の水郷地帯に囲まれた変化に富んだ美しい地域です。中央部は東部の山岳部からの愛知川・日野川が作り出した扇状地と沖積層からなる広大な平野部となっており、豊かな農地で近江米、近江牛を産出する穀倉地帯を形成しています。</p> <p>また、琵琶湖辺には大中の湖地域等の干拓地が、農業地帯として広がります。</p>

Copyright © KIKITORI Co., Ltd. All rights reserved.



日本農業新聞主催のDX推進研究会でのトライアル実施

- 当JAでは元々「DX」という言葉がない十数年前からデジタル化に取り組んでおり、JA内部書類や決裁等の電子化などで、煩雑化する業務の改善をすすめてきました

- 今回、県内最大規模JAとしてDX化のロールモデルになりたいという想いもあり、JA-DX推進研究会のトライアルに手を上げました

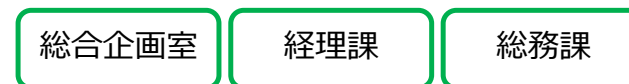
- 導入当初は、本店の総合企画室・経理課・総務課の課長がnimaruJAをはじめとするDXを進めておりました



ワークフロー（電子決裁）
導入等のIT化の取り組み



← 処理（事務仕事）はデジタル、
対応（組合員との対話）はアナログで →



JA全般のDX化 電算システム・インフラ整備 手続き面整備・組合員対話・接点



当初のお知らせ配信機能導入から、さらに定着に向けてご利用を拡大

利用機能



J A内部のDX

J A内部では、PCが貸与されない職員に向けての情報共有や、会議体への出欠確認へ活用し、業務効率向上による事業管理費の抑制を図り、時代にあった働き方改革を実践した。

生産者対話のDX

不特定多数へのポスティングやDM発送、それらにかかる作業時間の効率化、また特定部会へのタイムリーな情報発信により、組合員満足度を向上。業務の効率化により創出された時間を組合員との対話へ使用した。



- 現在では職員にとって、**なくてはならない当たり前のツール**に。
- 元々は組織全体での配信用として使用されていたが、現在はそれぞれの部署内において、きめ細やかに使われている。
- 長期的な定着により、職員会議の案内や職場内報については既に紙を廃止し、**全てnimaru J Aで配信**。
- 会議資料自体をnimaru J Aに添付して、出欠アンケート・案内文書と一緒に送っている。

- 職員が個別に部会員に説明を行うなど、**細かい単位ごとにこまめに拡大**。
- ローンセンターについては、キャンペーンの案内・税金の控除など、お得な案内を定期的に送付。
- nimaru J Aの「返信受付機能」を活用して、組合員から積極的に意見を送ることも。
- 当初は一方通行の配信ツールとして考えていたが、現在は**双方向性のやり取り**が増えてきていた。

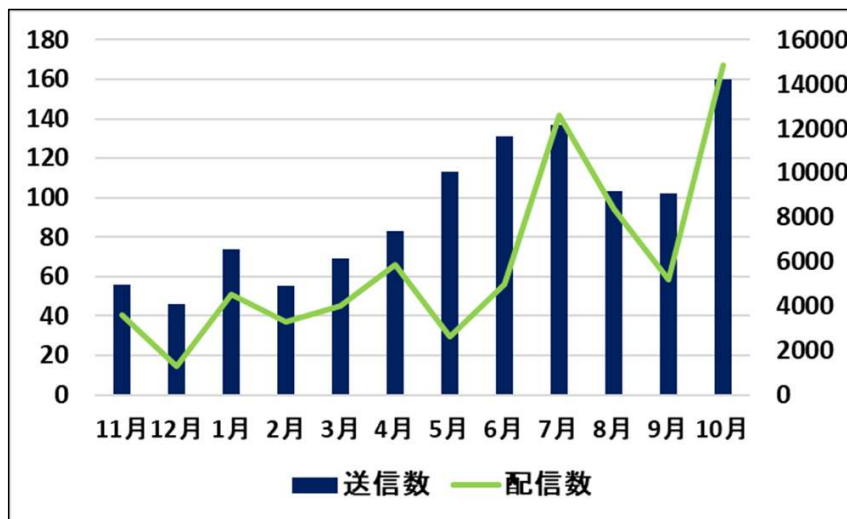
3,000人越えを目指して、更なる包括的な取り組みを推進！

- 職員からの積極的な活用方法提案により、当初の連携目標数1,000人達成後も、コアな正組合員（米生産者）への登録を進めることで**3,000人を新たな目標値**と考えている。
- 独自AIチャットボット「よりどりみどり」をnimaru J Aのリッチメニューに組み込んだことで、**nimaru J Aをハブとして**、組合員が自主的にDXに関する様々な取り組みを行えるように進めている。
→ チャットボットは**5か月の間で組合員から自主的に延べ262クリック**。
- 返信機能・アンケート機能を使うことで、さらなる**双方向性の活用拡大**を目指す。
- 職員・組合員からnimaru J Aに関する意見や工夫の提案についてあげられることも多く、**組合員の意識の中にもnimaru J Aがしっかり根付いており**、その勢いをより拡大させる。

生産者からの声

- 66 情報をタイムリーに受け取ることができるので便利 99
- 66 スマホからいつでもどこでも手軽に情報確認できるので、使い勝手が良い 99
- 66 返信等の**双方向性のやり取り**を積極的に活用していきたい 99

過去12か月の配信状況



The logo for the nimaruDX award is a stylized, circular emblem composed of several overlapping, curved segments in various shades of green, creating a sense of motion and connectivity. It is positioned on the right side of the slide, partially overlapping the main text area.

nimaruDX賞 導入推進部門

nimaruアワード2025

J A 遠州中央 様

組織概要

名称	遠州中央農業協同組合
誕生年月日	平成4年10月1日（磐周12 J Aが合併）
管内エリア	磐田市、袋井市、森町を中心とする静岡県遠州地域
拠点数	主要拠点：園芸流通センター、袋井地区、森地区
職員数	588名
組合員数	14,676名（正会員）
主産品	いちご、レタス、白ネギ、海老芋、トマト
地域のPR	『遠州の恵み、安全・安心のこだわり。』 遠州中央農協管内では、温暖な気候と豊かな土壌を活かし、いちご、レタス、白ネギ、海老芋、トマトといった多様な園芸作物を生産しています。園芸流通センターを物流・品質管理の拠点とし、最新のIT技術による選別や徹底したトレーサビリティを確立。食の安全・安心を追求し、市場のニーズに応える高品質な農産物を全国にお届けしています。



DX化によって業務効率化と販売力の強化を両立！！ 持続可能な組織運営に向けた新たな一歩

【導入の背景】



- 紙、電話中心の業務運用×職員数の減少により現場や販売担当の負担増
- 生産者出荷伝票からシステムへの転記ミスや伝票の紛失リスク、保管スペースの確保

- 横持ち拠点の数量を実際に荷物が来るまで把握できず、出荷先への連絡が遅延気味
- 販売力の強化による平均単価の向上が課題

【nimaru導入後】

- 生産者がスマホで出荷数量を入力する事で、手書き伝票からシステムへの入力ミスを根絶
- 複数拠点の荷受け数量の自動計算により、業務効率化による負担減と可視化を同時に実現

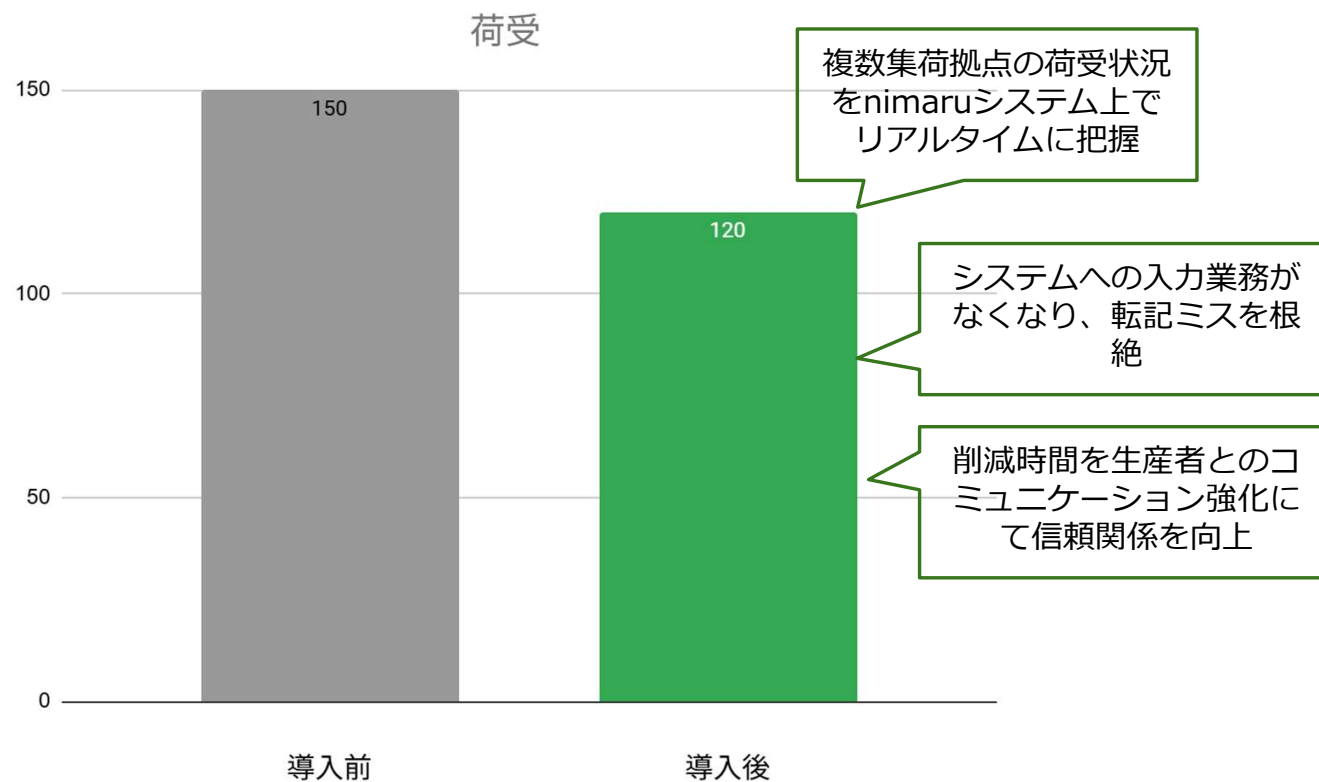
- 事務作業時間の削減により生産者とのコミュニケーション（栽培管理、出荷予測等）の時間を創出、信頼関係の構築に寄与
- 生産者から「出荷連絡が楽になった」という声も届き、職員のモチベーション向上に寄与

- 複数拠点の出荷数量を事前に把握できるようになり、需給バランスや相場感を見ながら市場との交渉を有利に進めることが可能に
- 外出先、出張先等いつでもどこでも、品目ごとの数量をスマホ上で確認し交渉が可能に

- 伝票の紛失による個人情報漏洩リスクを根絶し、伝票保管スペース削減
- nimaru推進担当者を中心に組織内でサポート体制を構築、スムーズな運用開始を実現



nimaru導入によって荷受関連業務を20%削減 複数拠点間の状況把握や転記ミスの削減、生産者とのコミュニケーション強化に寄与



全拠点、全品目での導入拡大、荷受～分荷までの一連の作業をnimaruで行い全行程のDXと販売力強化をめざす

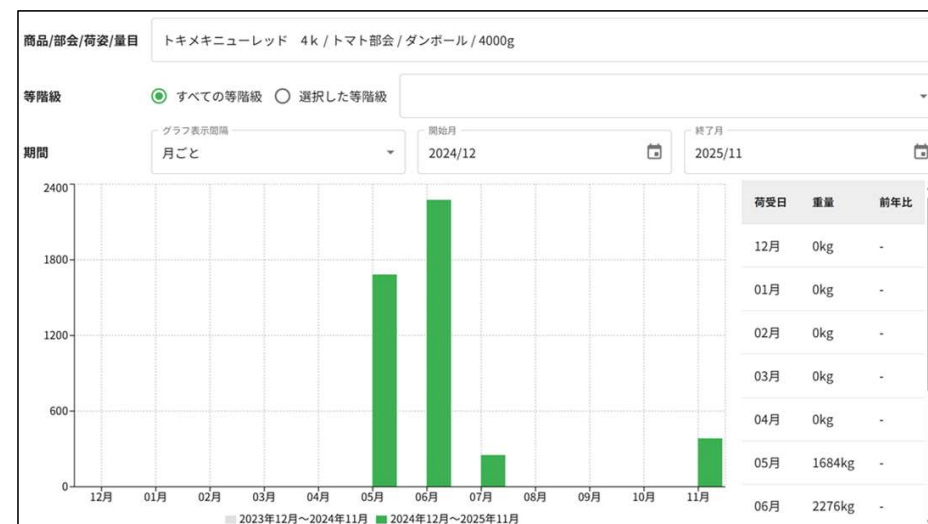
全品目でのnimaru導入

- ・ 場所や人に依存しない働き方、体制の構築
- ・ 削減した時間やお知らせ配信の活用で生産者とのコミュニケーションの時間を増やし関係性強化につなげる



nimaruに蓄積したデータの活用

- ・ nimaruに蓄積した集出荷データから生産量、傾向を把握し販売計画、強化に繋げる
- ・ 正確な情報を早期に取得することで、市場への情報発信を行い販売力の向上に繋げる





nimaruDX賞 波及創出部門

nimaruアワード2025

**J A 晴れの国岡山
赤磐アグリセンター様**

組織概要

名称	J A 晴れの国岡山_岡山東統括_赤磐アグリセンター
誕生年月日	令和2年(2020年)4月1日
管内エリア	岡山県全域を管轄する広域 J A ・管内8つの地区に統括本部が設置され、岡山東管内では岡山東基幹アグリセンターを中心に3つのアグリセンターで運営されている ・赤磐アグリセンター：2025年8月統合（5つの支店の営農経済部門を合併）
拠点数	岡山東統括：3拠点／赤磐アグリセンター
職員数	2,692人
組合員数	138,412人
主産品	牛肉、米、トマト、白桃、ブドウ
地域のPR	「晴れの国」と呼ばれる温暖で日照に恵まれた岡山県全域を管内とし、四季折々の豊かな自然と清らかな水に育まれた農産物が自慢です。特に白桃やマスカットなどの果実は全国的に高い評価を受け、米や野菜、花き、畜産物まで幅広く生産。県域 J A として地域農業の振興と食の安心・安全を支え、都市と農村をつなぐ“おかやまブランド”の発信拠点として活動しています。



取り組みの背景



旧山陽支店で集出荷・コミュニケーション機能のご活用をスタートし、高い効果実感を得られたことで管内他支店への利用拡大、また県外事業者様への利用促進にご尽力頂いた

時系列	フェーズ	トピック
2024年 2月	導入ご提案 ご検討	<ul style="list-style-type: none">2024年2月に本店大山次長、渡邊様と共にご訪問2024年3月に御申し、展開に向けた準備をスタート<ul style="list-style-type: none">出荷報告書の作成、電算システム連携の為のマスタ整備
2024年 4月	活用スタート	<ul style="list-style-type: none">2024年4月より契約開始集出荷機能利用を5月より開始（品目：黄ニラ、エンダイブ、個販）<ul style="list-style-type: none">荷受集計と送り状発行機能を活用電算センター様と連携して電算連携を実施
2024年 6月	ブドウ活用 スタート	<ul style="list-style-type: none">2024年6月よりブドウでの集出荷利用を開始（ぶどう部会での生産者説明会実施）nimaruアワードに参加いただきました
2025年 1月	利用支店の拡大 順次品目拡大	<ul style="list-style-type: none">2025年1月、岡山東基幹アグリセンター主催にて各支店担当者様向けのnimaru説明会実施<ul style="list-style-type: none">本会にて、赤坂支店・瀬戸支店・和気物流センターにて活用意向を表明まずは2支店ずつ進める方針を本会で決め、赤坂支店・瀬戸支店と協議開始2025年5月、赤坂支店・瀬戸支店にてスナックエンドウにて集出荷利用開始<ul style="list-style-type: none">山陽支店 難波様のフォローアップにより岡山東統括内で運用立ち上げができる状態に2025年6月、和気物流センター・備前支店での利用開始に向け協議開始<ul style="list-style-type: none">新たな2支店の活用が進むと、岡山東統括では全支店での利用となります共選のもも、荷受け以降の送り状の作成や出荷連絡にてご活用中
2025年 4月		

取り組みの内容



J A 晴れの国岡山管内での利用拡大推進

- nimaruの活用を、岡山東内の他拠点への利用拡大について職員様を中心に自走で活用スタートさせた
 - 山陽支店様の活用事例は県内他統括へのnimaru活用拡大促進につながり、2025年は活用拠点数が大幅UP
- J A様内部での活用に留めず、市場や物流を巻き込んだ外部連携へと拡張できた



Copyright © KIKIOTI Co., Ltd. All rights reserved.

岡山県域・県外への波及

左記の取り組みだけではなく、

- 県域組織へのnimaru活用現場の視察
- 県外 J A様のnimaru活用現場の視察・意見交換会の実施のご協力いただき、自組織に留まらずnimaru活用に受けた波及効果を創出頂きました



J A 晴れの国岡山 岡山東統括内

- 岡山東統括全体で、全品目・全拠点すべてnimaru J Aを活用した出荷体制を確立させたい
 - 岡山東内では未導入の備前アグリセンター、和気アグリセンターの活用に向けて準備中
- nimaruを活用した組合員様とのタイムリーな情報共有を岡山東統括全体で推進していく
- nimaruでの品目を拡大させ、組合員様のnimaru利用者数を更に拡大させる
 - 新たに利用を始める組合員様はアプリを活用して利用開始
 - すでにLINE連携で利用中の組合員様は順次アプリ利用へ移行をはたらきかけ中

自組織以外の県内・県外

- 県内では晴れの国岡山だけではなく、運用会社・市場含めて取り組んでいきたい
- **全国の農協へnimaruを広げていきたい**

The logo for the nimaruDX award is a stylized, circular emblem composed of several overlapping, curved segments in various shades of green, creating a sense of motion and interconnectedness. It is positioned on the right side of the slide, partially overlapping the main text area.

nimaruDX賞

組織変革部門

nimaruアワード2025

J A さま 様

組織概要

名称	こまち農業協同組合
誕生年月日	平成10年6月
管内エリア	湯沢市（旧湯沢市、稲川町、皆瀬村、雄勝町）、東成瀬村、羽後町（三輪・西馬音内・田代・仙道地区）
職員数	約300名
組合員数	9,577名（うち正組合員 6,775名、准組合員 2,802名）
主産品	あきたこまち、きゅうり、ネギ、トマト、桜桃、トルコギキョウ、等
地域のPR	<p>J Aこまちは、平成10年に11総合J Aと1専門J Aの合併により誕生し、現在は本店・6支店を中心に事業を展開しています。</p> <p>秋田県内陸南部に位置し、奥羽山脈や出羽丘陵、神室山系に囲まれた自然豊かな地域で、雄物川や成瀬川などの流域に広がる肥沃な耕地では「あきたこまち」を主力に、野菜・果樹・花卉・畜産が揃う県内有数の複合産地を形成しています。</p> <p>安全で高品質な農畜産物の供給を目指し、地域の特性を生かした産地づくりを進めています。</p>



地区毎にnimaru推進担当をアサイン、職員間ノウハウを共有 短期間で全集出荷拠点のDX化による業務効率化と可視化を実現

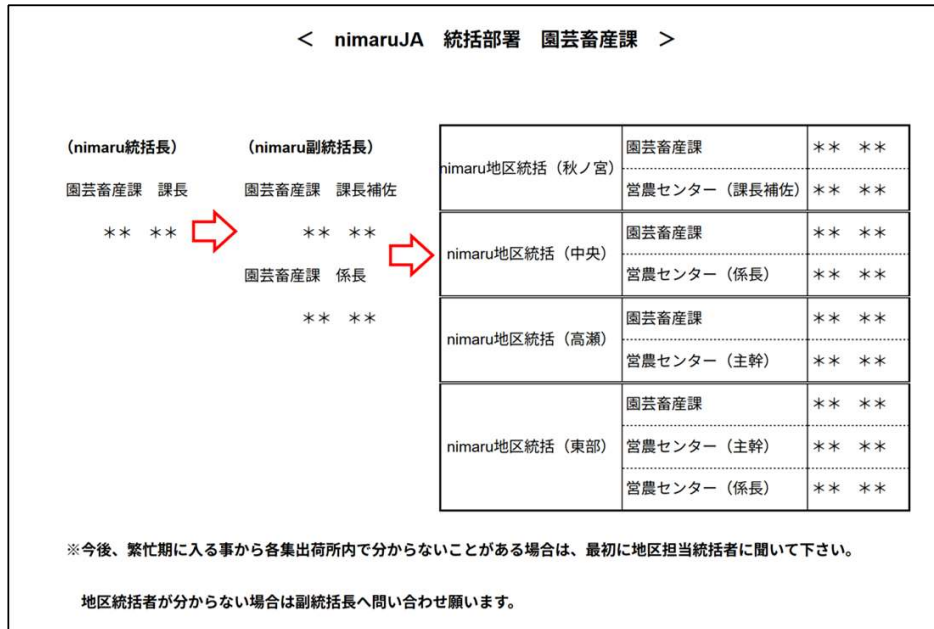


- 生産者の出荷状況を当日まで把握できず、事前の職員側の準備が困難
- 市況情報を紙やFAXで纏める手間と情報伝達のスピードの遅延
- 複数集荷拠点の荷受状況をTELやFAXベースで状況把握し、手集計による業務負荷大
- 電算システム入力は品目によって1日数百件のデータを数時間かけて入力・確認作業が発生
- スマホからの集荷場持込前の出荷連絡により、**当日荷受数を事前把握**して万全の準備へ
- 市況や集会案内を生産者のスマホ経由で**タイムリーに情報配信**
- 検品実施後の荷受数量の自動集計により、**業務効率化と可視化**を同時に実現
- **各集荷拠点の荷受状況をリアルタイムで把握**し、職員間の連携負荷を大幅に削減
- nimaruから出力したcsvアップロードにより**電算システム入力業務は数分程度に短縮**
- nimaru上で双方データ共有が可能の為、**本店一集荷場間の伝票送付業務が不要**
- **各地区毎にnimaru推進担当をアサイン**し、短期間で全拠点運用を実現
- 独自マニュアル整備やチャット機能の活用により、**職員間の運用スキル・ノウハウを共有**

取り組みの内容

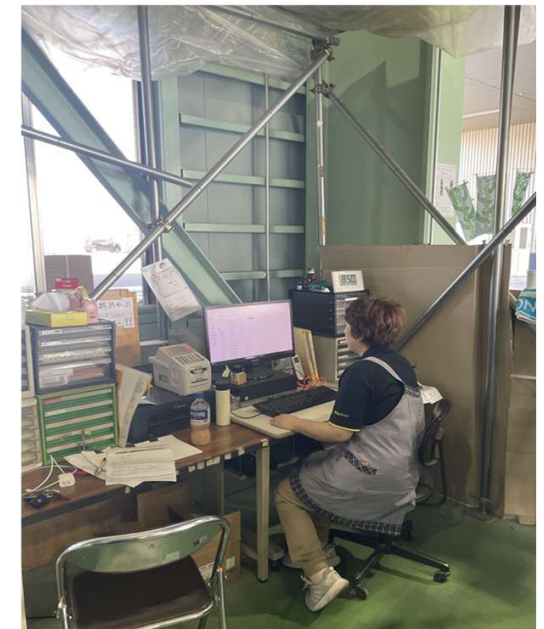
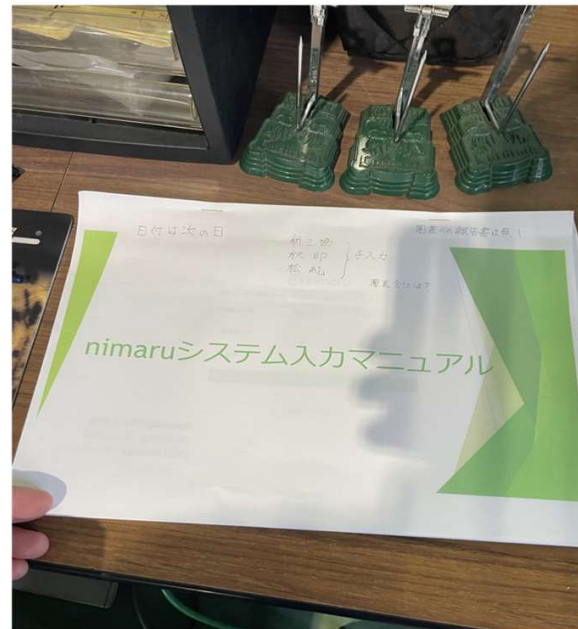
【nimaru推進体制図】

エリアごとにnimaru推進責任者をアサイン



【職員による独自マニュアルの作成】

独自マニュアルを作成し、現場職員のnimaru運用を後押し



全拠点における安定運用とフルーツセンター品目への拡大 26年4月合併予定のJAうご様における運用開始に向けて検討中

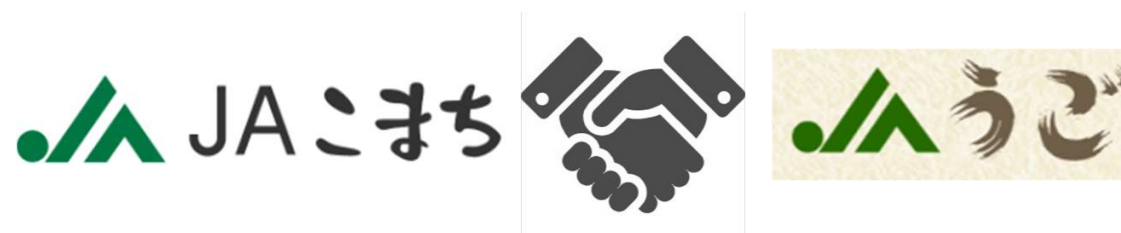
安定運用とフルーツセンター品目への拡大

- エリア毎の職員スキル、ノウハウの平準化による安定運用へ
- 桜桃を始めとするフルーツセンター品目への運用拡大



JAうご様における運用開始に向けて検討中

- JAこまち様における運用立ち上げ、ノウハウを横展開
- JAうご様での早期立ち上げを目指す



The logo for the award is a stylized, circular emblem composed of several overlapping, curved segments in various shades of green, creating a sense of motion and connectivity. It is positioned on the right side of the slide, partially overlapping the main text area.

nimaruDX賞 連携協創部門

nimaruアワード2025

J A 福岡大城 様

組織概要

名称	福岡大城農業協同組合
誕生年月日	2001年4月1日（3 J Aが合併）
管内エリア	大川市一円の区域、久留米市城島町一円の区域、三潞郡大木町一円の区域
拠点数	4 拠点 （大木集荷場、城島集荷場、大川集荷場、アスパラガス選果場）
職員数	正職員数 82名（令和6年度）
組合員数	5,953名（令和6年度）
主産品	いちご（博多あまおう）、ぶなしめじ、えのき、青ネギ
地域のPR	J A福岡大城は、福岡県南部にある大川市・大木町を中心とした地域で、稲作をはじめ、野菜や果物の栽培が盛んなエリアです。筑後平野の豊かな土壌と、自然の恵みを受けた気候の中で、多様な農産物が育まれています。特に、博多あまおうは販売高約40億円と、県内を代表する産地として、取り組んでいます。



取り組みの背景

全国的にもブランド産地として丁寧な選別作業を行う一方で、その検品作業や入荷処理に関する負担が常態化することなど持続可能性に課題

大木集荷場だけでも1日**30,000**パック

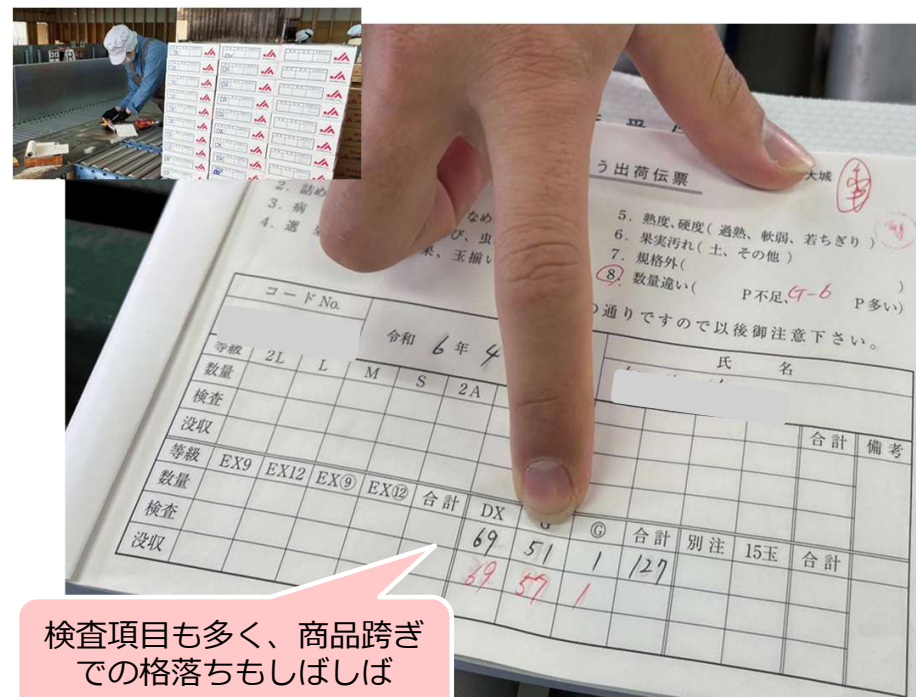


ドライブスルー形式
でひっきりなし荷受



すぐに山積みとなり
スピード感が求められる

検品時に**厳格に**規格落ちを行う上に
生産者にも細かくフィードバック



検査項目も多く、商品跨ぎ
での格落ちもしばしば

取り組みの内容



いちごの選別のように丁寧に、段階的かつ着実なデジタル化を実践
 シーズン終盤は、約**100名**の生産者、検査員約**10名**の巻き込みに成功

R6.12

役員を中心に数名で荷受のみ開始
 (通常運用と併用)

No.	生産者	検査員	2L	1L	M	S	2A	B	白粉	検内
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入荷合計	0	15	13	86	3	3	0			
入荷・前日在庫合計	0	15	13	86	3	3	0			
1		検査員			58		1			西 重
2		検査員			10					西 重
3		大木果実検査	15	13	4	3	1			西 重
4		検査員			14		1			西 重
5		検査員								西 重

取組はごく一部



10数人の検査員の
習熟

R7.4

約**100名**全員で運用し、荷受・分荷をフル活用
 ブランドの礎となる丁寧な検品もデジタル化

検査項目を数十個設定し、
着実なフィードバック

評価

詰め方 (玉ころび) 詰め方 (手ずれ) 詰め方 (なめ果) 詰め方 (つぶれ) 病害 (うどんこ) 病害 (灰かび)

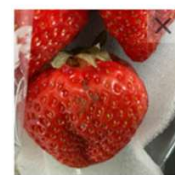
病害 (虫) 病害 (スリップス) 病害 (黒カビ) 病害 (ねずみ) 病害 (その他) 選果 (果形) 選果 (玉崩れ)

選果 (裂果) 選果 (玉先いたみ) 熟度、硬度 (不受果) 熟度、硬度 (過熟) 熟度、硬度 (軟弱)

熟度、硬度 (若ちぎり) 果実汚れ (土) 果実汚れ (その他) 規格外 数量違い (不足) 数量違い (多い)

数量違い確認 (役員職員チェック済) 選果 (腐れ) 選果 (先青果) 没収 別送 選果 (傷) 数量違い(中抜け)

添付ファイル



+

規格落ち品には写真を添付
生産者の気づきへ

期中に役員→青年部→全体
へと着実に拡大

成果は、JAグループ福岡のモデルケースとして取り上げられる

4. 県内JAのトライアル結果 (JA福岡大城)

品目：あまおう
 場所：大木集荷場
 実施時期：令和7年12月～3月
 生産者数：90人
 うちnimaruJA出荷連絡70人

課題：
 ①集出荷業務の簡略化
 ②物流業務の合理化
 ③業務時間が長く、繁忙期には休暇がとれない場合がある。
 ④Fオン入力ミスが発生する。

今回トライアルによる効果：
 ①これまでの紙からシステムへの変更により荷受、分荷業務が簡略された。
 ②物流業務の効率化は未検証
 ③業務時間が短縮され、人員削減が見込まれる。
 ④データ連携によりFオン入力ミスは減少された。



4. 県内JAのトライアル結果 (JA福岡大城)

	荷受	検品	集計	分荷	分荷Fオン	出荷	合計
定量効果	紙	紙	紙	紙	手入力	紙	306分
	150分	103分	10分	20分	10分	13分	
トライアル	紙 nimaru	紙 nimaru	nimaru	nimaru	nimaru	nimaru	204分
	20分	145分	10分	20分	3分	6分	
	-130分	42分※	0分	0分	-7分	-7分	-102分

※操作習熟の為、次年度以降は解消

定性効果

職員目線

- 紙での作業からnimaruでの作業に代わることでFオン入力が不要となったため業務時間が削減された。
 - 入力が少なくなることでミスの減少につながった。
- ※ 活用品目の拡大

生産者目線

- nimaruJAでの出荷連絡に満足している。
- 従来の紙には戻れないという声があった。

取組拡大に加え、データに基づく戦略的販売の為、売立機能をフル活用、 更に物流2024年問題の解決の為、出荷予定作りと運送会社へのデータ連携に挑戦

全体拡大による 効果最大化（約70億）



売立分析機能による 販売高度化

売立入力 (共販)

規格	出荷数量	売立数量	売立単価	小計
2L		<input type="text" value="140"/>		<input type="text" value="140"/>
		<input type="text" value="19"/>		<input type="text" value="19"/>
L		<input type="text" value="80"/>	規格別 売立を入力	<input type="text" value="80"/>
		<input type="text" value="33"/>		<input type="text" value="33"/>
		<input type="text" value="80"/>		<input type="text" value="80"/>
		<input type="text" value="20"/>		<input type="text" value="20"/>
M	12	<input type="text" value="12"/>		<input type="text" value="12"/>

運送データ連携機能 による物流計画化



nimaruDX大賞

nimaruアワード2025

J A 庄内たがわ 様

組織概要

名称	庄内たがわ農業協同組合
誕生年月日	平成7年4月1日
管内エリア	鶴岡市（旧藤島町、旧温海町、旧羽黒町、旧櫛引町、旧朝日村）と庄内町（旧余目町、旧立川町）、および三川町の1市2町（旧7町1村）
職員数	359名
組合員数	18,395名（正組合員10,665名、准組合員7,730名）
主産品	水稻（つや姫）、山ブドウ、庄内柿、山菜、きのこ、ナスなど
地域のPR	<p>当JAでは、稲作を中心とした、多彩で高品質な農畜産物を生産しております。県産オリジナル水稻品種「つや姫」「雪若丸」は県内最大の作付面積を誇り、地域と行政、JAが力を結集し「つや姫」「雪若丸」のブランド化・販路拡大を展開。JA独自に「つや姫コンテスト」を開催し、生産者と一丸となった取組みを強化しております。</p> <p>地域特産物や在来作物などの食材を活かし、JAや行政、関係機関が一体となって歴史や風土に育まれた食文化の再発掘や、豊かで安全・安心な食生活を提案しながら「食の都庄内」としてのブランドづくりも進めております。</p>



取り組みの背景と取り組みの内容①



“お米づくり情報を中心にタイムリーに営農情報を伝達、組合員の満足度も向上”

ご利用JA様名 : JA庄内たがわ様

ご利用機能 : 情報配信、集出荷CD、出荷予定

ご利用部会 : 米穀中心に全部会

ご利用組合員数 : **1,512名 (2025/11時点)**

ご利用開始月 : 2023年9月

導入目的 : 営農情報や気象情報などのお知らせのタイムリーな配信
会議や集会の出欠席の確認

配信内容 : 米づくり情報、大豆通信、大雨・高温時の栽培指導（米穀）
施肥計画書（花卉）
大雨後の防除情報（梨）
集会の案内、アンケート機能を活用した出欠確認



nimaruを選ばれた理由について教えてください

情報とは、発行して必要な方に早く届けることが出来れば、情報は生きてくるものの、配布のタイミングが遅ければ情報は死んでしまいます。その事から近年は、特に高温障害対策や台風情報などを生産者の方へ早く届ける方法を模索しておりました。

以前より携帯電話によるショートメールやe-mailを活用する方法も模索してはありましたが、一斉送信における既読有無管理の面が弱い事、また数年前にLINEの活用も考えておりましたが、まだ認知度が低く醸成期間が必要ではないかという判断から採用を見送ってきました。今回kikitoriからの提案を受け、nimaruJAの既読機能や今後の拡張性、LINEの認知度の向上も考慮し、採用する事となりました。

nimaru導入の経緯について教えてください

当JAが組合員へ情報提供をする方法としては、情報を紙媒体に印刷し配布する事が唯一の方法でした。情報を受け取る組合員も、全員が専業農家というわけではありません。会社員で兼業農家の方もおり、特に兼業農家の方の場合は、仕事が休みである土日に封書や紙媒体で配布していた為、どうしても情報が一齐に行き渡らない状況から、長年の懸案事項として認識しておりました。



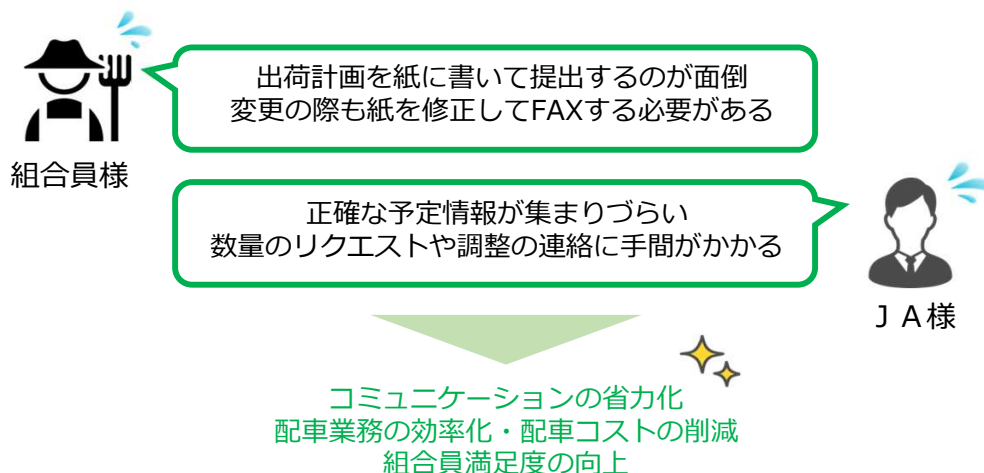
“米穀部門での庭先集荷/自己搬入の管理、園芸部門の集出荷業における外部事業者の巻き込みに注力”

米穀部門でのお取り扱いについて

水稻の収穫期における米の庭先集荷、自己搬入の予定数管理、組合員との集出荷全般におけるコミュニケーション等、これまでアナログな手法で行っていた業務について、更にnimaruの活用法を考えていく必要があると思っております。

具体的には、集荷/搬入前日正午時点の予定数量を、園芸部門でも利用中の「集出荷クラウド機能」を利用して組合員さんのスマホから送信していただく運用を想定しています。

これまでにコミュニケーションの取組で築いた土台の上に、当農協の主力である米穀の流通の最適化の一助となることを期待しております。



園芸部門でのお取り扱いについて

これまでの取り組みでは荷受業務のデジタル化、電算システム入力工数の削減、職員の業務標準化に取り組み、運用が一定レベルまで定着してきました。

次のステップとしては、生産者が持ち込む個票のデジタル化と出荷先へFAXで送っている分荷情報のデジタル化に注力していきたいと考えております。

現時点ではまだ紙の個票を職員がnimaruに手入力し、送り状はFAXで出荷先へ送信しています。その部分も含めて入荷から精算までの一連の流れをnimaruに置き換えることで、持続可能な販売体制を目指しております。

